

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500354		
法人名	株式会社ケア・コスモス		
事業所名	グループホームコスモス新井荘		
所在地	太田市新井町285-4		
自己評価作成日	平成30年2月28日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所形態の特性を活かし、家庭の雰囲気そのままに、暖かな雰囲気をだしつつ質の高い介護を提供する事をモットーとしています。また、地域のつながりを大事にし、積極的に地域行事等に参加しています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成30年3月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2階建てであり、居室の1部と食堂等の共用部分は1階にある。利用者は自立度が高く、1階と2階の自室を行き来しており、自由さがある。また、利用者にとっては職員が一目で生活空間を見回せる1階から2階に移動するので、一息ついたり、気分が変わったり、一人になれる場所があり、気分転換になる。利用者のお顔は晴れやかで、思いのままに生活している様子が伺え、グループホーム本来の姿が見えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と事業所理念をそれぞれ作成し、理念の趣旨に沿って日々の業務を実践している。	管理者と職員は支援時に理念を意識して業務に努めている。職員には業務分担の役割があり、理念にそぐわない声掛け等があった場合は管理者等が注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会(隣組)に加入しており、地域の敬老会、お祭り、クリーン作戦などに参加している。散歩中に近隣の方々と顔を合わせれば挨拶や雑談もある。野菜を届けてくれる方もいる。	回覧板が回ってきて情報を得ている。地域の行事には2~3人が参加している。今後は事業所の専門性を地域に活かす活動を検討している。月に1度傾聴ボランティアの訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで支援の方法などについてもアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催している。事業所の取り組みや地域の意見・情報交換などを行っている。	家族・区長・民生委員・老人会長・地区副会長・市の担当者が出席し利用者状況、行事報告を行い、意見交換がされている。年に5回開催されている。	家族が出席しやすい環境作りと定期的な2か月に1度の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	太田市長寿あんしん課とは運営推進会議を通して、社会支援課とは生活保護の入居者の近況報告などで連携をとっている。	管理者が事業所の報告や空き情報に関して各担当課に出向き、連携している。介護保険の認定調査の立会いや更新代行を希望により代行している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行った事例はないが、指針や同意書の準備はある。玄関も普段から施錠を行わないようにしている。	身体拘束に関する内容を職員は理解している。玄関は開錠されている。他の身体拘束もしていない。利用者は自由に事業所内を歩き来し、散歩では職員が同行し外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いや態度など、職員同士が内部で話し合う機会を設けて防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については学び・実践とも今のところ機会に恵まれていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を擁して契約書・重要事項説明書の内容を説明し納得の上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情受付窓口の設置運用はもちろん、こまめに入居者様やご家族とコミュニケーションをとり運営に反映させている。	家族の訪問時には日頃の様子や状態を話しながら、「何かありますか」と聞いている。本人からは支援時に何気なく話す内容から拾っている。出された意見は申し送りノートや連絡帳で職員は共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎月施設の訪問があり、管理者は随時職員の話をしている。	1週間に1度程度法人責任者が事業所を訪問し、意見を聞いている。管理者が各職員の意見を申し送りで共有し、意見に耳を傾ける姿勢をとっている。結果的に、職員が安定し利用者に優しい接遇に結びついている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割を職員の意向に沿って作成している。有休休暇も取り易い環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で積極的な資格取得を推奨している。勉強会を行う事もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員については法人内でのイベント等で交流を図っている。管理者同士では勉強会や会議の他にも連協の会合等でも顔を合わせる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問して頂いたり病院に出向いたりして面談を行い、ご本人ご家族の意向や現状を十分に聞きとり関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の意向を十分に聞き取り理解した上で多様なサービスを提示し利用できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族の意向を十分に聞き取り理解した上で多様なサービスを提示し利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員が共に生活するという意識を職員が持ち、「家庭の雰囲気そのままに」という理念を体現できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連携を密にし、十分な協力関係を持ち共に支えていく関係を作れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ関係が途切れないように入居者様の友人知人等にも働きかけている。	新聞の購読・美容院や図書館通い・馴染みの場所への訪問・お化粧をしたり着る服を選ぶ支援をしている。家事等ひとり一人に声掛けをし、おせち料理や十五夜等の行事の設えを実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格・個性を職員が把握し、入居者様同士での関係悪化が無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も馴染みの関係を継続し相談のし易い関係作りに努めている。以前入居されていた方のご家族からの入居相談もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話などだけでなく日常的な何気ない行動から表れる意向や希望をキャッチするように心がけている。	本人と家族の意向を聞き、方向性を確認し、職員も日頃の利用者の状況から推察し思いの把握に繋げている。ビデオ鑑賞やカラオケを楽しむ意向がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境等をご家族やご本人より詳細に聞き取りを行っている。また日常的な会話からもキャッチできるようにし、記録に残し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送り等での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族とは随時話し合いを行い、意向を十分に取り入れている。	家族からはお任せしたいという意見が多いので、連絡ノートやケース記録から計画作成のヒントを得ている。3か月に1度モニタリングを実施し、6か月に1度介護計画の見直しを行っている。	月に1度はモニタリングを行い、季節の変わり目ごとには介護計画を見直して現状に即した計画の作成をしてはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート、ケース記録等を活用し情報共有、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の趣旨に応じた外出・役所届出などの付き添い、合同イベントなど規模の大きさやニーズに応じて多様なサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約医療機関への付き添いだけでなく、利用者様の馴染みの医療機関への付き添いも行っている。	入居時にかかりつけ医の継続か事業所の協力医を選択できることを説明し、協力医による月に2回の往診がある。かかりつけ医受診は基本は家族支援だが職員も支援できる。2週に1回必要に応じて訪問歯科受診支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師・契約医療機関の看護師などに適切な連絡・相談ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はもちろん入院中に対しても連絡を密にして関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針・同意書を作成し、ご家族に対し説明と意向の確認を行っている。	事例はないが事業所の指針があり、家族の希望があり、協力医の判断で、関係者の協力が得られれば看取りを行う方針である。本人から「ここでお願いしたい」という声もあがっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急救命講習の受講を大半の職員が受講済である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの避難訓練を行っている。災害時の備えとして食糧・水を備蓄している。	平成29年4月消防署立会いの下利用者職員が参加し昼間想定消火・通報・避難・総合訓練を実施。その他の自主訓練は実施していない。備蓄は消費期限が来て処分しており、今後内容等を含め検討事案になっている。	消防署の総評を自主訓練に活かして自主訓練を重ねて職員と利用者が避難技術を身に付けてほしい。備蓄の用意もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気を出しつつも入居者様はお客様という意識を常にもち、お一人お一人を尊重した声かけを行っている。	法人から尊厳についての入職者への教育もあるが、日常的には利用者に小声で話しかけることや自己決定を支援し、希望に添った外出や、お財布を持って買物に出向く等の支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすいように選択肢を生活場面で示す機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合わせた個別の対応ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って着替えなどができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望に合わせた献立を入れながら栄養バランスに留意し献立を決定している。下ごしらえや盛り付けを中心に入居者様に手伝ってもらっている。	朝食は職員が作っているが昼と夕食は宅配業者からのでき合いの物を湯煎と野菜等があれば追加して提供している。献立は決められているので、利用者の食べたい物を聞きお誕生会等の行事食で提供し、個別で外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各人の状態に合わせた口腔ケアを一日三回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるかぎり残存機能を活かし、ご本人に合った排泄方法、パターンを把握、検討し支援している。	トイレでの排泄を支援している。自立者や支援が必要な人に個別に誘導や昼夜によって排泄用品を変えたりしながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週一回健康運動指導士によるリハビリ体操が行われている。散歩も随時行っている。食事に関しては便秘予防に牛乳やヨーグルトなどを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を可能にし、自由に入浴できる環境を整えている。	声を掛けて入浴したい人に入ってもらっている。拒否のある人には、声掛けや時間帯を変えて入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し午睡や就寝時間などを調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋やカルテを決まった場所に置いている。内服薬変更時の確認等、情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や嗜好を把握し個別に支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は積極的に散歩を行っている。また、個々の意向を重視し、買物や通院、役場などへの付き添い等支援している。	日常的には特に散歩や買い物、家に行く等の希望があり、個別で希望に応じて自由な支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ち自身で少額を管理している方も複数いる。買物時は自由に選べるように支援声かけをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話のやりとりも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾や草花を飾り付けている。また家庭的で暖かな雰囲気を出せるよう内装・家具などにも配慮している。	2階建ての事業所で1階が共用空間と居室、2階が居室となっている。共用空間には椅子とテーブルの他にソファ、季節の飾りもの、利用者の作品が掲示してある。利用者は階段を利用し、行き来している。不快な臭いは無い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース内に一人になれる椅子・マッサージチェアを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品は使い慣れた物をできるだけ使用していただいている。	ベッドや筆筒、洋服かけ、テレビが置かれ、新聞や化粧品等の日用品や趣味のお道具が整理されている。不快な臭いも無く個性が出ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全と自立に配慮した施設環境の充実を図っている。		